関西大学 初等部
2023 年度学校評価報告書

2024 年 3 月

目　次

１．本校の概要 1
２．今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策 1
３．アンケートの実施状況 16
４．アンケート結果の分析 16
５．学校関係者評価委員会からの評価結果 19
６．校長の意見書 21
７．アンケート結果 22

2023年度　関西大学初等部　学校評価報告書

関 西 大 学 初 等 部
自己点検・評価委員会

1　本校の概要

（１）　沿革

2010年（平成22年）４月、学校法人関西大学の初めての小学校として高槻市に開校、中等部・高等部とともに12年一貫教育を行う。学級数12、児童数368名、教員数36名（専任21名、非常勤14名、特任外国語講師１名）（2023年５月１日現在）である。

（２）　建学の精神、教育理念・教育方針・教育目標等

本学の教育理念である「学の実化」に基づき、学理と実際との調和を基本とする教育を展開し、「確かな学力」「国際理解力」「健やかな体」「情感豊かな心」を養い、高い倫理観と品格を備え「高い人間力」を有する人間を育成する。

校訓として「考動　－学びを深め　志高く－ 」を掲げ、めざす子ども像は「考える子」「感性豊かな子」「挑戦する子」としている。

2　今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策

（１）　重点目標①：本校教育の柱である思考力育成の取り組みのさらなる充実を図るとともに、授業研究に積極的に取り組むこと

達成状況の目安：(◎)大幅達成・(〇)達成・(△)未達成・(×)大幅未達成

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
ア　安定した学級経営と学力向上 【評価指標】 ・　生活習慣や学習規律の定着による安定した学級経営及び学習指導（オープンスクール参加者対象アンケートの自由記述欄での各授業での子ども評価及び、保護者の学校評価アンケートの当該設問の肯定的回答80%以上） ・　校長による日常的な各学級回り（授業等参観） ・　児童の学力向上に資する教員の研究授業・研究会の実施及び教科会議等の実施 ・　研究発表会の開催（２月３	【取組状況(Do)】 学級経営については、日常的な指導を通して基本的な生活習慣や学習規律の定着を図るとともに、連絡帳や電話による直接連絡・学級・学年だよりに加え、学級・学年ブログにより家庭との連携を進めた。さらには、日記やアンケートなどによる児童への内面的な指導支援を行った。各担任や教科担当と管理職の連携を密にし、子ども・保護者・学級等の課題については早い段階で報告を受け、素早い対応に努めた。 学力向上については、研究テーマを「クリティカルシンキングを発揮する子どもの育成～STEAM化を手立てとする探究的な学習を通して～」と設定し実践・研究を進めた。 ICT環境の整備とICTの活用については、ADP（Apple Distinguished Program）2016-2018、ADS（Apple Distinguished School）2018-2021に引き続きADS 2021-2024の認定を受けており、日々、子どもたちの学びを深め広げるために、iPad等のデジタルデバイスを有効活用するとともに、 ロイロノート等のアプリの効果的な活用やプログラミング学習の実践を進めている。 また、児童の学習活動の充実のため、各学年で外部人材の協力

日） ・ 全国学力学習状況調査結果（国公立大学附属校の平均点を上回る。）		を得ている。
		【達成状況(Check)】（○） 毎日、校長が各教室をまわり児童の様子、教員の指導状況を見ているが、それぞれの学級においても安定した学級経営が行われており、児童が落ち着いて主体的に学ぶ様子が見られた。学校運営、生徒指導、教科指導面でも、月１回の定例会議を開き、各教員が情報交流及び指導の充実に努めた。 ６月に対面で実施したオープンスクールに参加した受験対象保護者のアンケートでは、「在籍している子供達が積極的に元気に楽しく取り組んでいる様子をみて志望校としての気持ちが更に強くなりました」「実際に授業を見学させて頂き、また校舎も見学させて頂き、学校生活での雰囲気がとてもよくわかりました。子ども達が楽しそうに授業に参加している姿がとても印象的でした」「児童が積極的に授業に参加している姿が印象的でした。ミューズ学習やICTを活用した学習も形骸化せずに児童たちの学びに根付いていると感じました。授業自体も先生方の工夫が垣間見え、大変素晴らしく思いました」「子ども達の意欲的な姿がとても印象に残りました。そして、先生方が子ども達にその都度、意見を求めながら授業を進めていらっしゃることも印象的でした。子ども達と先生方のコミュニケーションがしっかり取れていて、子ども達が安心・信頼して学校生活を送っているのを感じました」など、子どもたちの学びの主体性やそれを引き出す教員の指導力について高い評価をいただいている。保護者アンケートにおいても、学級経営・学習指導に関する項目（No.２～８、11～15）で90%以上の肯定的評価をいただいた。 今年度も管理職を除く全教員が研究テーマに沿った研究授業を実施し、研究授業毎に授業反省会を実施した。その際、これまで継続して指導を受けている本学総合情報学部の黒上晴夫先生、本学教育推進部の岩﨑千晶先生、千葉大学教育学部の二宮裕之先生からも指導助言を受け、指導力の向上を図った。実践・研究のまとめとして２月３日に研究発表会を開催した。本年度も例年同様に管理職を除く専任教員全員が授業を公開し、約500名の方にご参会いただいた。参会者からは、「STEAM化された単元デザインであり、とても参考になった。また、〇〇先生の子どもに対する接し方についても、非常に勉強になった」「思考ツールの使い方や目的をわかりやすく、授業に組み込まれて

いて、とても勉強になりました。思考ツールを使うための材料等も子どもたちも理解していて、これまでの積み重ねが力になっているのだと感じました」「子どもたちの、聞き手を引きつけるプレゼンの仕方に驚きました。『よく見ると、驚きの事実が明らかになりました』など、聞き手に注目して欲しいことをクイズ形式にしたりと、〇年生とは思えないプレゼンに、見入ってしまいました」などの高い評価を得た。また、日常の学習活動に、ゲストティーチャーとして国際交流関係者、助産師、医療メーカー等、多様な職種の方の支援を受けた。

ADS 2021-2024の認定については、本校における「子どもたちが好奇心を持って学べるような環境と思考力を高める取組」が評価されたものである。

また、本年度も12月15日にICT活用の公開授業（“Think×Act”×CREATION 2023）を開催し、授業公開した。参会者からのアンケートには「１年生でも、音読にBGMを付け足すことでより、詩の世界に親しめる、入り込めると言うのは面白いICTでの取り組みだと思いました。系統性を意識して、他学年でも実施していきたいと思いました」「〇年生の算数を参観しました。解説動画を作るというのは新しい発想で勉強になりました。単元の最後に家庭学習でやってくるのも、ひとりひとりの理解度が分かりよいなと感じました」「ピラミッドチャートを使って、根拠となる資料や説得力のある主張をできるようにする取り組みを知りました。自分たちで主張につながる資料を集め、吟味していくのは本当にレベルが高いので、日々の指導を本当に丁寧にされているなと感じました」など、本校の実践を高く評価していただいた。

本校では、これまで文部科学省の全国学力・学習状況調査において私立・国立小学校の平均点を上回る結果を残してきたが、本年度は国立とほぼ同得点であった。

2023年度 全国学力・学習状況調査結果

	全国平均	私立平均	国立平均	本校平均	標準偏差
国語	67.4	77.0	80.2	80	2.3 (2.9)
算数	62.7	77.0	80.0	80	3.2 (3.8)

【今後の改善方策(Action)】

今年度は、これまでの取組を継続しつつ、新たな研究テーマを設定して児童の学力向上に取り組んできた。今年度の取組の成果と課題を共有して、次年度も教員全体で学力向上に努めた

		い。また、学力状況の客観的指標である文部科学省の全国学力・学習状況調査については、今後はより一層の基礎基本の定着に加え、児童の思考力・表現力を高めていく指導を充実させたい。 　児童の生活面については、学年団の教員が密に連絡を取り合うとともに、管理職への報告や、現在実施している職員会議等での児童の実態共有の場の設定を継続し、いじめ・不登校等の事象が生起した場合でも、学校全体で情報を共有し対応にあたりたい。 　ICT 活用については、今後もプログラミング、ICT 活用方法、情報モラルの指導等、学校全体としての系統的な指導を進めていきたい。
イ　図書館教育の充実 【評価指標】 ・　図書館司書との連携による読書・資料活用促進（個人の各月読書冊数の一覧表作成、中学年以上を中心に、各授業等での活用のための学年への資料本貸し出しの実施） ・　図書館活用のための講座を各学年１回以上実施 ・　読書メソッドの活用（ブックトーク、アニマシオン、リテラチャーサークル、ビブリオバトル等を学年に応じて実施） ・　外部講師を招聘した講演会等の実施		自己評価 【取組状況(Do)】 　思考力育成の土台となる読書活動充実に向け、学年に応じた児童への声かけを行うとともに、各児童が借りた本の冊数集計や一覧表作成を行い、日頃の指導に役立てている。図書の授業では、読書に加え、図書館司書による読み聞かせを行うとともに、読書メソッドの活用や調べ学習における資料の活用等、情報活用能力の育成にも力を入れている。 　また、各学年のオープンスペースにはブックトラックを置き、読書や調べ学習の充実を図っている。 　現在開設中の「デジタル図書館」は子どもたちが自宅からでも自由に本を借りることができるシステムである。このため、長期の休校や夏休みなどの休業中であっても、子どもたちは興味を持った本を自由に読み進めることができた。 　また、司書による図書館活用講座の他、本年度は写真絵本「となりのホンドギツネ（文一総合出版）」を出版されている写真家の渡邉智之さんに「ホンドギツネの魅力－自然と人とをつなぐ写真家という仕事－」というテーマで講演をしていただいた。 【達成状況(Check)】（○） 　５名の司書は、児童の選書支援はもとより、情報活用に関わる支援、また、教員に対する支援も行っている。読書講座については、図書館活用オリエンテーションだけでなく、図書の分類、図鑑の活用方法等、探究活動につながる指導も行った。また、外部講師として写真家の渡邉智之さんを招いて実施した講

		演会では、渡邉さんが１年生の国語教材「くちばし」と関連付けて、「干潟にやってくる面白いくちばしをもっている鳥たち（シギ、オオサギなど）と、その形になっている理由」などを紹介してくださったので、子どもたちも一緒に考えながら講演に参加することができた。 本年度も図書館活用のための講座を各学年１回以上実施するとともに、読書メソッドの活用としてブックトーク、アニマシオン、リテラチャーサークル、ビブリオバトル等を各学年で実施した。 図書室の読書スペース「わくわく館」と学習スペース「はてな館」を目的に応じて活用し、読書に加え探究学習のための情報収集の場としている。 本年度も「はてな館」に子どもたちが興味を持ちそうなブースを期間限定で設置することで、子どもたちが図書室に足を運ぶ機会を増やすことをめざした。例えば、本校との交流校である韓国花津小学校からいただいた物品や「交流校締結の公式文書」などを展示した韓国ブースなどは、例年同様に、韓国と交流している２年生が非常に興味を持ったブースであった。 また、オープンスペースのブックトラックに資料本を置くことで、児童の図書活用の頻度が高まっている。
		【今後の改善方策(Action)】 思考力育成の土台となる基本的な語彙や知識の獲得は、計画的な図書館教育によって支えられており、読書指導、情報活用力の育成両面から次年度も継続して取り組みたい。 子どもたちが興味を持ちそうなブースを期間限定で設置することは、子どもたちが図書室に足を運ぶ機会の増加に非常に効果的であった。今後も継続して設置していきたい。 また、外部講師による講演は、児童の読書への興味関心を高める良い機会となったので、今後も継続していきたい。
ウ　国際理解教育の推進 【評価指標】 ・　英語圏、アジア圏の国々との積極的な交流 ①　各学年（２年生以上）の国際交流取組の継続実施 ②　交流国、交流内容に応じ		自己評価
		【取組状況(Do)】 国際交流については、２年生以上の学年でテレビ会議システムの活用や、手紙や学習成果物の直接交流による取組が定着してきた。韓国花津小学校とのテレビ会議システムを利用した交流など、取組を継続してきた。６年生は昨年度から引き続きネパールの子どもたちと交流を続けている。 本年度、新たに５年生がニュージーランドの子どもたちと交

たテレビ会議や互いに作成した資料交流等を実施 ③ 英語教育との関連づけ （テレビ会議､修学旅行等の交流に合わせたコミュニケーションスキルの習得機会を設定）		流するなど、新たな交流先を積極的に開拓している。 それぞれの学年において、交流の際に英語で質問や挨拶ができるように、英語のモジュール学習や授業を進めている。
		【達成状況(Check)】（○） 交流相手校や関係機関と連携し、２年生韓国、３年生台湾、４年生カンボジア、５年生ニュージーランド、６年生ネパールとの交流を実施できた。事前に交流テーマを決め英語も交えて直接交流することにより、児童が意欲的に活動に取り組み異文化理解を深めたり、コミュニケーション面で自信を持ったりすることができた。特に５年生の交流先であるTe Ākau ki Pāpāmoa Schoolはニュージーランドで ADS（Apple Distinguished School）に認定されていることから交流を始めた学校である。今後の長期的な交流も視野に入れて、英語担当教員だけでなく、管理職もTe Ākau ki Pāpāmoa Schoolを訪問した。 本年度６年生は総合学習の学びの一環として２月９日に本を出版した。出版費用はクラウドファンディングで集め、２年間の防災学習のまとめとしての出版である。本のタイトルは「やってみた！いのちを守る64の防災活動」である。実はこの本にも、国際交流の成果が現れている。具体的には、６年生の子どもたちが日本在住のネパール人を対象として開校されたエベレスト・インターナショナルスクールの子どもたち・先生方と交流した際、先生方に「ネパール大地震」の時の体験をインタビューした。そのインタビューで得た情報も本に紹介している。 また、６年生については、例年はオーストラリアへの修学旅行で現地の学校の子どもたちと交流をしてきたが、本年度は修学旅行の行き先が沖縄のため、沖縄アミークスインターナショナル小学校とテレビ会議で交流をした。修学旅行当日は、初等部の子どもたちと沖縄アミークスインターナショナル小学校の子どもたちが対面で交流を楽しむことができた。 英語教育においては、４技能をバランス良く育てることをめざしてカリキュラムを工夫し、コミュニケーション能力の基礎を養う指導を進めることができた。１年生から４年生までは保護者向け英語発表会も実施している。
		【今後の改善方策(Action)】 ２年生の韓国花津小学校、３年生の台湾太平小学校は継続した交流を進めることができている。５年生のTe Ākau ki Pāpāmoa SchoolについてもADS（Apple Distinguished School）として

		継続的な交流が続けられるよう働きかけていきたい。 　今後も子どもたちにとって価値ある体験を積み重ねられるような方法を模索していく。

（２）　重点目標②：良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること

取組計画及び評価指標(Plan)		自己評価
ア　生徒指導・人権教育の充実 【評価指標】 ・　学校全体で児童を指導・支援する体制の確立（年度当初の「子どもを語る会」実施及び児童の情報交流を毎月実施） ・　児童対象の生活アンケートを年２回実施し、実態把握と必要に応じ学校全体での早期対応に努める。 ・　いじめ問題・不登校等への対応など生徒指導に係る校内体制の確立（生徒指導連携会議及び、いじめ・不登校対策委員会実施による早期発見・早期対応） ・　特別支援教育に係る校内体制の検討（特別支援連携会議の実施） ・　人権教育の取組充実（全児童対象の人権教育講演会を１回実施、情報モラルに係る学習機会の設定、系統性をふまえた各学年の学習内容の確立）		【取組状況(Do)】 　今年度も、教員による日常的な児童観察の他、生徒指導連携会議（構成メンバー：管理職、生徒指導主任、教務主任、健康教育担当、当該学年主任・担任）を生徒指導の中核として位置付けた。また、2024年から障害のある子どもが十分に教育を受けられるための「合理的配慮の提供」が義務化されることを鑑み、「特別支援連携会議」（構成メンバー：管理職、特別支援コーディネーター、教務主任、生徒指導主任、健康教育担当、当該学年主任・担任）を校務分掌に位置付けることにした。 　子どもの情報の共有については、「子どもを語る会」や毎月の職員会議における各学級の状況報告により、支援の必要な子どもについて教員全体で共有するとともに、一人ひとりの状況把握のために全児童対象の生活アンケートを実施した。 　また、保護者に対しても年度当初に「学校のきまり」の冊子を配付し、生活指導全般に対する協力を依頼している。いじめ・不登校問題への対策については、管理職を含む「いじめ・不登校対策委員会」を設置し、必要に応じて円滑な対応ができる体制を整えている。 　人権教育に関しては、意識を向上させるため学年カリキュラムを作成し、計画的に実施するとともに、人権教育講演会を実施した。
		【達成状況(Check)】（○） 　年２回の児童生活アンケートは生徒指導部会が集約・分析を行い、日常の指導に活かすとともに、必要に応じて全教員で情報を共有した。また、「その日の問題はその日のうちに解決」をモットーに、担任を中心として電話、連絡帳により家庭との意思疎通を図ることで、学校と家庭とが一体となって指導支援を行うことができた。「子どもを語る会」は、年度当初と年度末の２回実施した。 　不登校傾向対応については、担任だけが抱えることなく早期に不登校対策委員会を招集したり、ミューズキャンパスのスクールカウンセラーとの連携も行ったりしながら、学校全体で対

		応に取り組むことで一定の成果をあげている。 　特別な配慮の必要な児童については、随時、保護者から情報を得て「特別支援連携会議」を実施し、チームで対応することができた。 　人権教育については、分野別の学年カリキュラムをもとに指導を進めた。また、例年実施している全校生を対象にした人権講演会については、本年度、兵庫盲導犬協会の濱口さやかさんとPR犬を招き、盲導犬の訓練士の立場から視覚障害者についてのお話をしていただいた。講演会では、盲導犬の訓練デモンストレーションもしていただき、子どもたちが視聴覚障害者の方と共に生きる社会について考える貴重な機会となった。 　また、各学年対象に外部講師を招いた「いのちの授業」を行うことで子どもたちの人権感覚の育成をめざした。１年生・３年生は大阪府助産師会から、４年生はAED研修を行う業者から、５年生は尼崎市薬剤師会から、６年生は東京学芸大学附属国際中等教育学校からそれぞれ講師を招聘し、２年生は本校教員が講師となり「いのちの授業」を実施した。それぞれの学年の発達段階に応じた指導により、子どもたちにとって命の大切さと人権感覚を身につける大切な時間となった。 　情報モラルの指導については、本年度も全校生を対象に学習会を行った。各学年とも、児童の発達段階に応じた学習会を実施することができた。
		【今後の改善方策(Action)】 　本年度から設定した「特別支援連携会議」については、特別な支援が必要だと保護者から要望があった場合に開催したが、その都度、対応を協議するという手法であった。来年度は特別支援が円滑に進められるようなシステムを確立していく必要がある。 　システム構築にあたっては、特別支援教育について先進的な取組を実施している中等部・高等部を参考にすることで、初等部としてのシステムを確立するとともに、初中高一貫校としての特別支援教育のあり方についても、中等部・高等部と連携して検討していきたい。 　児童は全体的に落ち着いて学校生活を送っているが、毎月の職員会議では数件、職員間で情報共有するべき報告事項があった。今後も、職員間で情報共有し、多くの教員の目で児童を見て学校全体で解決にあたる体制を継続していきたい。 　人権教育に関わるカリキュラムについては、ねらいや内容を

		全体で共有し、部会を中心に精査してより良いカリキュラムにしていきたい。
イ　よりよい学校生活を築く態度を育成する特別活動の推進 【評価指標】 ・　集団への所属感や望ましい人間関係育成のための行事開催 ・　児童の自主性及び児童相互のつながりを育むための集団活動の実施 委員会・・・隔月１回実施 クラブ活動・・・年７回実施 全校縦割り活動 ・・・年５回実施		自己評価 【取組状況(Do)】 各学級・学年で年度当初に年間目標を考え、主体的・協働的に学校生活を送ることができるようにしている。宿泊学習については、２年生の高槻(１泊２日)・３年生の奈良(１泊２日)、４年生のスキー合宿(２泊３日)、５年生の淡路島(２泊３日)、６年生の沖縄への修学旅行(４泊５日)を実施することができた。 ５、６年生による委員会活動、４年生以上によるクラブ活動を予定通り実施した。 本年度の特別活動は、「学級･学年にとどまらず、縦割り活動等に積極的に取り組み、仲間意識や所属感の醸成を図る」ことを大切に、「たてわり」活動を充実させることにした。 また、昨年度からスタートした芸術館鑑賞会については、本年度は全校生で劇団四季劇場（梅田）へ行き、「バケモノの子」を観劇した。 【達成状況(Check)】（○） ２年生から６年生の校外学習は子どもたちにとってかけがえのない体験となった。 本年度の特別活動は「たてわり」活動を充実させることにした。その一環として、本年度の運動会を「子どもたちの主体性を尊重する運動会」をめざして取組を進めることにした。 まず、縦割り班の仲間意識を育むために、「縦割り競技」を実施することにした。また、例年は学年担任が決めていた団体競技の種目は学年担任と子どもたちの話し合いで決定した。子どもたちの主体性を尊重するという趣旨から、子どもたちが種目を選んで出場するエントリー競技も実施し、エントリー競技の内容も、６年生の運営委員会で話し合って決定した。 子どもたち主体で新たに創った運動会は、子どもたち、保護者にも非常に好評であった。 本年度の観劇は、全校生で劇団四季劇場（梅田）へ行き、「バケモノの子」を観劇した。子どもたちが本物にふれるという観点から、劇場に全員で足を運んだのは、価値のある活動だと捉えている。 【今後の改善方策(Action)】 学校行事については、文化祭、運動会等において全児童が

		十分に力を発揮し、達成感を持ち自尊感情を高めることができたと考えている。今後も引き続き継続していきたい。 　また、全校生での観劇については来年度以降も継続していきたい。

（３）　**重点目標③：管理面・指導面について継続的に改善を図るとともに、中高等部・大学及び保護者との連携を意識した学校運営体制を整えること**

取組計画及び評価指標(Plan)		自己評価
ア　安心・安全の学校生活を構築するための安全管理・指導 【評価指標】 ・　児童の安全管理に関する定期的な訓練及び指導の実施（年３回実施） ・　教育後援会（保護者）との連携及び啓発（地区委員会による通学見守り活動や啓発活動の実施）		【取組状況(Do)】 　登下校のマナー指導や危機対応については、日常の学級指導の他に、全校集会やテレビ放送で具体的な指導を継続して行い意識の向上を図った。また、学校だより「初等部だより」・生徒指導通信「関大っ子」により、安全に関する保護者啓発を進めた。また、例年に引き続き教育後援会主催で「子ども見守り活動」・「関大っ子登下校等安全見守り活動」が行われた。 　本年度の４月以降、電車・バスの乗車マナーについての苦情電話やメールが学校にあったため、通学時間帯の当該電車に本校教員が同乗して指導するなど、電車内や駅のホームでのルールやマナーの徹底を行った。 　管理面では、地震・火災等の避難訓練等を実施し、万全を期すよう努めている。
		【達成状況(Check)】（○） 　登下校のマナー指導や危機対応については、学級指導・全校集会・テレビ放送などで具体的に「こんなときにはどうするか？」を子どもたち自身に考えさせる指導を継続して行った。その際、一方的に教えるだけでなく、自分自身の行動を見つめ直させ「考動」できるよう意識づけを行った。 　また、一方で、電車やバスの乗車マナーについては、学校への苦情電話・メールの情報をもとに、具体的な電車・バスの時刻を特定して、当該児童に対して個別指導するとともに、実際に通学時間帯の電車に教員が乗り込み、子どもたちに直接指導を行うことで乗車マナーの徹底をめざした。 　教育講演会による「子ども見守り活動」・「関大っ子登下校等安全見守り活動」については、学年・クラスごとに見守り期間を設定していただくなど、保護者の方が積極的に子どもたちの見回りに取り組めるよう工夫をしていただいた。また、「子どもの登下校マナー向上活動」の一環として、「わたしの登下校マナーアップ宣言！」と題した「登下校マナー川柳」や「登

		下校マナーポスター」作品作りを通して、子どもたちだけにとどまらず、親子で登下校時の安全について考える機会を設定していただいた。 　全校一斉下校指導については、下校経路ごとの小グループに分かれ、高学年がリーダーとなり、緊急時の下校体制について確認することができた。 　地震・火災発生時の避難訓練については、初等部での実施（１月12日）に加え、「関大防災Day（11月20日）」には初等部・中等部・高等部・社会安全学部という高槻ミューズキャンパス全体での避難訓練を実施することもできた。
		【今後の改善方策(Action)】 　校内・登下校時の基本的なルール・マナーについて、全教員の共通認識のもと、日常の学級指導や全校集会での指導について改善を進めたい。 　また、教育後援会との連携を深め、登下校見守り運動の継続や保護者の意識向上等、学校と家庭が一体となった安全管理及び安全指導の充実を図っていきたい。
イ　安心･安全の学校生活を構築するための給食･アレルギー対策の実施 【評価指標】 ・　アレルギー対応についての教員研修の実施及び職員会議における教員の情報共有 ・　業者及び保護者との連携によるアレルギー対策の徹底（給食業者との月１回の調整会議を実施）		自己評価
		【取組状況(Do)】 　給食業者が新しい業者に変わって２年目となった。これまでと同様に、業者との連絡・調整を密に行い、アレルギー対応について万全を期すなど、安全・安心な給食の提供をめざした。 　給食管理・指導については、養護教諭と管理栄養士が中心となり、業者との打ち合わせと定例の会議を行っている。アレルギーをもつ児童に対しては、全教員が各児童の状況を認識するとともに、代替・除去等が見える形で配膳して安全管理を進めている。また、前年度末に集めた児童のアレルギー状況についての書類をもとに、本年度の対応策について確認している。
		【達成状況(Check)】（○） 　給食業者との連絡・調整を密にとることで、安全・安心な給食が提供された。 　給食に関する日常的な打ち合わせ及び月１回の定例の給食会議では、よりおいしい給食をめざした献立作成はもとより、アレルギー対応等についても常に情報を共有し、その結果を当該児童の学年団に伝えている。 　今年度も、全教員が参加してエピペン研修を実施し、緊急時

		の対応について共通確認をした。
		【今後の改善方策(Action)】 本年度、学校給食についてはアレルギー対応の大きな問題はなかったが、気を緩めることなく、引き続き万全の対応を心がけたい。 エピペン持参の児童も在籍しているので、救急体制についても全教員で共通理解できるよう努める。また、アレルギー対応だけでなく、給食のメニュー向上に向けても引き続き、業者との連携を進めていきたい。
ウ　より多くの出願をめざす入学試験の実施 【評価指標】 ・　新しい入学試験内容・方法の確立 ・　入試広報戦略の検討及び効果的な広報活動の実施 ・　年４回の学校説明会、オープンスクールの実施 ・　年 50 回以上の幼児教室訪問		自己評価
		【取組状況(Do)】 本年度は学校説明会・オープンスクール・入試説明会をコロナ禍以前と同様に対面形式で行った。また、本年度は新たな取組として、学校説明会終了後にグラウンドを開放して自由に子どもたちが遊べる時間帯を設定した。さらに、以前は学校説明会が終わった後に実施していた「幼児向けの体験授業」を土曜日の午後に実施するなど、新たな取組を行った。 また、広報活動として、本年度も幼児教室関係者と連絡を密に取り、情報交換を行った。 入学試験については、一昨年度からＡ日程入試(９月実施)とＢ日程入試(１月実施)の２回実施することで、より多くの受験者を得ることを目指した。
		【達成状況(Check)】（◎） 学校説明会（３月12日・５月21日）、オープンスクール（６月10日）、入試説明会（７月９日）を実施した。それぞれ、人数制限を設けずに実施することで多くの参加者を得た。それぞれの参加者は学校説明会（355名・508名）・オープンスクール（558名）・入試説明会（389名）である。 学校説明会（３月12日）で、保護者の方に登壇いただく座談会を実施したところ、参加者から多くの感想をいただいた。例えば「保護者座談会で登壇された方が仰っていた、ハード面のみならずソフト面が素晴らしいとの点に関して、本日の説明会で先生方のお人柄が伝わり、貴校への入学を志望する気持ちが高まりました」「座談会では、特に御校の１番素晴らしいところが熱意のある先生がいること。どんなすごい機器が揃っていても熱意に勝るものはないと言われていたことが印象に残って

		います」などである。また、説明会全体としても「始まりの合唱とても感動しました。娘も引き込まれるように、聞き入っておりました。日曜日にもかかわらず、合唱部のみなさん有り難うございました。『今できる最高の教育を子供たちに』というワードがとても印象に残り、また御校の柔軟性ある教育感や、考える手法を体験的に学べる授業は魅了的で、さらに雰囲気や先生方の熱意を感じられる説明会でした。他校ではあまりないような座談会を取り入れたり、色々な工夫をしてくださり、リアルな情報も非常に参考になりました」など好意的な感想が多かった。 オープンスクール（６月10日）についても好意的な感想を多くいただいた。 12 月 15 日に実施した ICT 活用に関する公開授業（”Think×Act”×CREATION 2023）では、教育関係者に加え、小学校受験に興味のある保護者の方にも参観いただいた。保護者向けには、６年生の子どもたちが各教室で座談会形式で本校の魅力を語る時間も設定したところ、保護者の方から好意的な感想を多くいただいた。「小学生とは思えない高いプレゼン能力は、１年生から積み重ねた経験と思考力の賜物だと思いました。クラスや学年を超えて沢山の生徒や大人と関わりを持つ事が出来る事は、優しさや思いやりを持った高い人間力を育む事が出来るのだと感じました。」「お子様方による学校説明会は、大変わかりやすく、よりリアルにわが子の将来を想像することが出来ました。６年生の生徒さん達は今すぐ社会に出られそうなくらいの能力を既に備えていらっしゃると感じました」「座談会で生徒のみなさんの生の声をお聞きでき、大変有意義な座談会でした。生徒のみなさんがそれぞれプレゼンテーションの準備をされたとのことで、その完成度も高くわかりやすく、パンフレットでは知り得ないお話を聞かせていただけたことは貴重な時間となりました」「前年度のイベントの際に一人として恥ずかしがる子がいないことに驚き、どうしたらこんな風に育つのか大変疑問でしたが、その答えを見つける事が出来ました。先生方も生徒さんも一人の話を【ちゃんと聞く】が徹底されており、普段から自分の言葉の効力を感じて育った結果、あのプレゼンが出来るのだと感じました。」など好意的な感想を多くいただいた。 本年度の幼児教室訪問は80回以上、幼児教室関係者とのメール送受信記録は４月１日以降240通を超えている。各幼稚園や幼児教室等に働きかけ、本年度新たに４カ所の幼稚園や幼児教室

		等で学校説明会を実施した。本年度は合計33回（オンラインも含む）の説明会を実施した。 本年度は、60名定員のＡ日程募集に対して148名の出願があった（出願倍率2.5倍）。Ａ日程の出願倍率2.5倍は、昨年度に引き続き関西の私立小学校では最も高倍率である。また、若干名のB日程募集に対しても18名の出願があり、昨年度同様に多くの方に本校を志望いただくことができた。
		【今後の改善方策(Action)】 説明会でのアンケート調査や各幼児教室の関係者からの情報では、今年度も他の私学にはない本校の思考力育成の取組に魅力を感じるという感想に加え、コロナ禍における本校の迅速な遠隔授業の実施、充実したICT環境などを高く評価する感想が多くあった。 関西の私立小学校に関する入試状況は厳しいが、今後も出願倍率は最低でも２倍、できる限り 2.5 倍以上の確保をめざして、引き続き本校の魅力について発信していくとともに、教育活動のさらなる充実と効果的な広報活動を進めていきたい。
エ　中等部・保護者・大学との連携の充実 【評価指標】 ・　管理職連携（週１回の初中定例会議等の実施） ・　教育後援会との密な連携（管理職、事務職、教育後援会役員・委員による月１回の実行委員会実施） ・　保護者対象の説明会の充実（５、６年生保護者に加え、全校保護者対象の会を実施） ・　教育活動の様々な分野における大学との連携（高学年における留学生との交流、４年生社会・道徳の小大連携）		自己評価
		【取組状況(Do)】 初中定例会議（教頭・事務室）を週１回実施し、連絡調整を行うと共に、初中教頭・教務主任ミーティングも週１回実施することで、初中連携行事等について協議した。 本年度も初等部・中等部・高等部シニアアドバイザーと連携することで、密接な初中高連携を行うことができた。 初等部・中等部の全教員が参加する初・中連携会議も年に２回実施し、情報交換及び初等部・中等部の連携の具体的方法について検討した。 保護者との連携では、担任はもとより教科の担当教員が必要に応じて保護者に連絡をとるなど、家庭と密に連絡を取り合っている。また、中等部進学に向けての情報提供の場として５・６年生対象の授業参観を対面形式で行った。 全保護者を対象とした中高等部の教育内容について情報提供する会（お話し会）については、初等部・中等部・高等部の卒業生が自分たちの学んだことを保護者向けに語る座談会形式で３月実施予定であったが、座談会に参加する卒業生と日程調整の結果６月実施となった（中・高等部主催）。 また、教育後援会との連携では月１回の実行委員会を開催し

		、学校行事への支援、登下校の見守り、新入学児童への支援、後援会独自の行事等について協議を行っている。 関西大学からは、研究や授業への指導、国際交流支援等を受けている。また、４年次生のキャンパス訪問による大学創立に関する学習により、大学への帰属意識を向上させる取組も例年通り実施している。
		【達成状況(Check)】（○） 例年は教科ごとに別々に実施していた初・中連携会議を、本年度は初等部・中等部の全教員が集まり、共により良い連携方法を考えていく機会を設定した。具体的には、小グループで「初等部・中等部の連携でできそうなこと、できたらいいなと思うこと」を、お互いに否定することなく出し合うブレインストーミングを行った。このブレインストーミングによって「中・高等部の葦葉祭（文化祭）で行う英語スピーチに初等部生も参加してはどうか」「中等部・初等部生が集まって知育ゲーム大会をしてみよう」など、新たな初等部・中等部連携のアイデアが出てきた。 実際に、英語科が主体となって、本年度、初めて葦葉祭での英語スピーチに初等部生が参加するという新たな連携をスタートすることができた。また、例年実施している「初等部・中等部対抗百人一首大会」でも、大会当日だけでなく、事前に顔合わせをして合同練習をするなど、初等部生と中等部生がより打ち解けられるような試みも実施することができた。 保護者との連携については、学校と教育後援会との連携行事や学校ホームページや登下校メール、学年ブログ等による密な情報提供により、学校・保護者間で信頼関係を築くことができている。 大学との連携については、４年次生が毎年千里山キャンパスで学ぶことや研究発表会の当日だけでなく、全教員が行う授業研究において関西大学の黒上晴夫先生・岩﨑千晶先生から指導助言を受けてきた。 また、本年度６年生が出版した「やってみた！いのちを守る64の防災活動」は、関西大学社会安全学部の河田惠昭先生をはじめ、社会安全学部の多くの先生方にご協力いただくことで完成させることができた。初等部と社会安全学部は、同じ高槻ミューズキャンパスにありながら、これまで十分な連携ができていなかったが、今回、大きな連携を行うことができたと捉えている。

		また、本年度、社会安全学部の城下英行先生のゼミ生を初等部に招き、各学年に安全に関するワークショップを実施してもらった。子どもたちは身近な大学生に教えてもらうことで、楽しみつつ安全な暮らしについて学ぶことができていた。 以上のように大学との連携は、例年よりも大きく進んだ一年であった。
		【今後の改善方策(Action)】 初中連携について、管理職間の協議で課題の共通認識と方策について検討する機会を定着させる。 中高等部主催で実施する初等部卒業生と教員による座談会など、今後も保護者向けのより良い情報提供の方法を模索していく必要がある。 保護者連携については、学校と家庭との連携とは別に、保護者同士の円滑な関係づくり、連携や、マナーについての啓発を教育後援会との連携により継続して進めていきたい。 また、大学との連携については、教員の指導力向上や児童の学習活動充実のために、さらなる連携を検討していく。

3　アンケートの実施状況

保護者アンケート・教員アンケート・児童アンケートは、それぞれ１月 31 日から２月９日に実施した。本年度も昨年度同様に Google フォームを使用した。

保護者アンケートの回収結果は、全 368 名中 350 名提出、回収率 95％で、昨年度と同様（１ポイント増加）の回収率であった。

教員アンケートは回収率 100％（専任 21 名・特任外国語講師１名）である。

また、児童アンケートについては、４年生から６年生を対象とし、風邪・発熱等で欠席・出席停止となっている児童がいたため回収率は 98％である。

アンケート項目・内容については、それぞれ教員 40 項目、保護者 32 項目、児童 10 項目とし、例年と同じく観点を揃えて対比させた。評価については、３種類のアンケートとも４段階評価としている。(「よくあてはまる」、「ややあてはまる」、「あまりあてはまらない」、「まったくあてはまらない」)

項目・内容については、いずれも職員会議で検討・承認されたものである。

4　アンケート結果の分析

ア　教員・保護者アンケートについて

全体を通して、保護者の評価は今回も肯定的評価が 90％を超えるものがほとんどであり、これまで進めてきた初等部の教育活動に高い評価をいただいたことは学校にとって嬉しい結果であると考えている。また、教員については、肯定的評価が伸びている項目もあれば、低下している項目も

ある。今年度の結果をもとに今後の教育活動の改善に活かしていきたい。

以下、いくつかの項目についての分析を述べる。

No. １は本校の私学としての独自性・認知度を、No. ２、３は初等部教育全体に対する納得度・満足度を尋ねている。保護者についてはいずれも肯定的評価が 95～99%と高い評価となっている。今後も保護者の満足度が高まるように取組を進めていきたい。

教員については、No. ２(公立や他私学に負けない教育)が４ポイント増となっている。「公立や他私学に負けない教育」は、本校教育の根幹に関わる部分である。この点については、教員自身が自分達の取組に手応えを感じた結果として受け止めている。一方で、No. ３(一人ひとりが大事にされる学級づくり)が４ポイント減となっている点は課題であると捉えている。

No. ４～15(保護者は No. ９、10 は無し)は、学級経営・学習習慣を基本としてどのような学力向上策がとられたかについての項目である。保護者評価は、ほとんどの項目で肯定的評価が 90%を上回っており、初等部の授業、取組に対して満足していただいている現れだと捉えている。

教員については、No. ９(中等部接続に向けたカリキュラム作成)が昨年度に引き続き低評価となっており、大きな課題だと受け止めている。ただし、低評価ではあるが、No. ９の肯定的評価が 22 ポイント増、No. 10(初等部一貫の英語カリキュラム作成)の肯定的評価が 17 ポイント増となっている点は明るい兆しである。この点については、本年度の初等部・中等部連携の取組の成果だと捉えている。

No. 17～21 は生徒指導及び特別活動に関する項目である(保護者は、No. 21 無し)。保護者評価は昨年同様に肯定的評価が 90%を超えており、生徒指導・特別活動の指導に一定の理解を示していただいていると捉えている。この中で教員アンケートの No. 21(クラブや委員会活動における自治意識や友達づくり)の肯定的評価が 25 ポイント増となっている。この項目の肯定的評価が大きく増加したのは、本年度、特別活動の中核に「たてわり活動」を位置付けたこと、その結果として運動会を子ども主体の取組に大きく改善したためだと捉えている。

No. 22～27 の道徳教育、人権教育、健康教育に関する項目については、No. 24(国際交流を通した国籍の違いを認め合う教育)の保護者・教員ともに肯定的評価が５ポイント増となっている。これまでコロナ禍のため国際交流のいくつかができなかったが、本年度は各学年とも交流を実施することができたことにより肯定的評価が増加したと捉えている。

No. 28 から No. 32(保護者は No. 28、30 無し)は安全管理に関する項目である。保護者については、いずれも肯定的評価が 98～100%と非常に高い評価となっている。教員についてはいずれも肯定的評価が増加しており、特に No. 28 は 17 ポイント、No. 30 は 16 ポイント増加と教員自身が取組に手応えを感じていると捉えている。

No. 33～35(保護者は No. 34 無し)は教員研修に関する項目である。保護者評価はいずれも肯定的評価が 97%を超えており、本校の研究を好意的に受け止めていただいていることがうかがえる。

教員評価では No. 35 (研究発表会の成功に向けた積極的な取り組み) の肯定的評価が 21 ポイント増加している。学校として、一つの方向に向けて教員が協力することができた成果だと捉えている。

No. 36(中等部進学に向けた適切な情報提供)は進路指導、特に保護者に向けた情報提供に関する項目である。保護者の肯定的評価が18ポイント減少しているのは、非常に大きな課題だと捉えている。原因として一番大きなものは、夏休み以降に実施する予定であった「全保護者を対象とし

た中高等部の教育内容について情報提供する会（お話し会）」が、アンケート実施時点でまだ開催できていないことだと捉えている。保護者が安心して中等部へ進学するためには、中等部の情報を適切に伝えていくことが必要不可欠である。来年度は、情報提供会（お話し会）を夏休み明け登校日に実施するなど、大きく改善する必要がある。

No.37(保護者は無し)は入試・広報活動についての項目であり、肯定的評価が８ポイント増である。本年度は計画的な入試・広報活動ができていた成果であろう。

No.38(保護者は無し)は関西大学との連携に関する項目であり、昨年度よりも肯定的評価が 33 ポイント増加している。大きく増加した要因は、本年度、６年生の出版した本についての大学との連携、社会安全学部の学生による安全に関するワークショップの実施など、新たな連携ができたのが要因だと捉えている。

No.39、40 は教育後援会との連携及び学校と家庭との連絡や相談に関する項目である。どちらの項目も保護者の肯定的評価が 97%、教員の肯定的評価が 96%となっており、特に、No.39（教育後援会との緊密な連携）の教員の肯定的評価が 13 ポイント増加している。来年度以降も、本年度同様の結果がでるよう良好な関係を継続させていきたい。

イ　児童アンケートについて

10 項目中、肯定的評価が 90%を超えている項目が７項目である。どの学年の児童も学校生活や自身のがんばりを概ね肯定的に評価していることがわかる。一方で、３つの項目については肯定的評価が 90%を下回っている。来年度に向けて改善を図っていきたい。

No.１、No.２は、初等部での在籍及び学校生活についての評価である。それぞれ肯定的評価が 90%以上あるとはいえ、否定的な評価をしている児童も No.１で７%、No.２で８%存在している点は大きな課題だと捉えている。

学習に関する項目では、No.３（勉強意欲）が 93%、No.４（思考力がついたか）が 92%の肯定的評価となっているが、それぞれ 100%にできる限り近づくよう取組を進めていきたい。No.５（授業評価）の肯定的評価が 89%と、90%を切っていることは大きな課題だと捉えている。猛省し、来年度での改善を図りたい。

No.６（読書や資料活用）については肯定的評価が 85%、No.７（ICT 活用）の肯定的評価が 98%となっている。一見すると、子どもたちが本などのアナログ資料の活用が不十分でデジタルデバイスに頼り切ってしまっているようにも見えるが、児童アンケートの対象学年が４年生以上であるということを考慮すると妥当な結果であろう。発達段階に応じた姿として、低学年のうちは本やアナログの資料の活用が中心となり、学年が上がるに従って「必要に応じて」デジタルデバイスを効果的に活用するのが自然な姿だからである。ただし、No.６の質問文「いろいろな本を読んだり、学習に本や資料を活用したりできましたか」には、「いろいろな本を読んだか？」「学習に本や資料（文脈からアナログ資料と捉えられる）を活用したか？」という二つの問いが含まれている（ダブルバーレル質問）。高学年になると、「いろいろな本を読んだが、学習には本やアナログ資料よりも主に ICT を活用した」という子どももいるだろう。No.６の質問文については精査する必要がある。

No.８（運動会や文化祭などへの参加意欲）については 92%が肯定的評価となっている。100%に少しでも近づけられるよう指導を進めていきたい。

No.９（学校生活のルール遵守）については肯定的評価が 88%となっており、No.10（いじめやな

かまはずれ）については肯定的評価が 94％となっている。当然、100％が肯定的な評価となることをめざしていくのだが、実際にルールを守れなかった場合、いじめ・なかまはずれが起こってしまった場合は、児童が自分自身の言動を自覚し、改善する必要がある。否定的な回答をした児童については、学校の指導により自分自身の言動を見つめ直した結果だと捉えている。

５　学校関係者評価委員会からの評価結果

（１）自己評価の結果を受けて

ア　重点目標①：「本校教育の柱である思考力育成の取り組みのさらなる充実を図るとともに、授業研究に積極的に取り組むこと」について

・研究発表会で授業を参観させていただき、先生方の指導・愛情に驚いた。理解に時間のかかる児童に対しても非常に粘り強く指導をされていた。一人も逃さないという気持ちを感じた。当該児童が授業終了時に笑顔いっぱいであったことが印象的であった。

・研究発表会には、教育関係者が約420名、受験希望の保護者が約80名、計500名ほどの参加があったとのこと。在校生の保護者を含まずにこれだけの人数が参加するのは驚異的なことではなかろうか。初等部の教育が注目されていることの表れと考える。

・研究発表会では、中等部１年生から３年生の授業も１クラスずつ公開されていた。初等部卒業後の先のイメージも見ることができ、とても良い取組であると感じた。

・全国学力・学習状況調査結果について、昨年度までは国立小学校の平均点を上回る結果を残していたが、今年度は国立とほぼ同得点となっている。学校としての取組内容は変わっていないという説明であるが、今年だけの状況であるのか、来年、再来年と今後数年の推移を注視していく必要があると考える。

・国際交流について、海外への修学旅行が実施できなかったことは残念であるが、その代替として、沖縄アミークスインターナショナル小学校と交流を行い、修学旅行を単なる観光旅行とせず、英語を使うという観点で計画され、実施された点は大いに評価できる。

・修学旅行については、次年度はニュージーランドのADS認定校との現地交流を行う予定であるとの説明を受けた。「本物に触れる」ことを重視されている中で、子どもたちが実際に海外を訪問することは非常に大きな経験になると考える。

イ　重点目標②：「良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること」について

・特別支援連携会議を校務分掌に位置付けたことについて、児童の特性に応じた対応を行うため、中等部・高等部での取組事例を学び、対応を進められていることを確認した。

・教員が児童に対して合理的配慮を行うことだけでなく、子どもたち同士がそれぞれの特性を理解しあえるようになることも重要ではなかろうか。

・運動会を見学したが、６年生が中心になって司会をし、責任感を持って運営を行っている様子が見て取れた。立場が人を作るというが、たてわり活動に力を入れ、子どもたち主体で実施されていたことが、しっかりと成果として出ていたと感じる。

ウ　重点目標③：「管理面・指導面について継続的に改善を図るとともに、中高等部・大学及び保護者との連携を意識した学校運営体制を整えること」について

・「子ども見守り活動」について、設定された見守り期間において、保護者が子どもと一緒に登下校をし、その中で気付いた点を学校へ共有し、登下校時の安全管理やマナー指導に活かしていることがうかがえる。初等部の子どもたちの登校の様子を見ていると、地域の公立小学校の通学路に立っているボランティアの方々とも挨拶を交わし、親しくしている。今後も、地域で出来ることがあれば協力していきたい。

・入学試験の実施については、出願状況が大変好調であったこと、体験授業実施の取組や、幼児教室への積極的な広報活動が結果に繋がったことから、十分に「◎」と評価できる。もちろん広報活動の展開だけでなく、初等部の教育そのものが評価された結果であろうと考える。

・社会安全学部との連携について、初等部の全学年の子どもたちと学部のゼミ生が安全に関するワークショップの場を持つことができたのは、とても大きな進展である。大学生の側においても、小学生に対して授業を行うことで学習・研究に対する真剣さが増し、充実した時間となった。次年度も是非この取組は継続して欲しい。

（２）アンケート結果について

・保護者アンケートについては、昨年度と比べて肯定的評価が向上しており、良い傾向であると考えるが、「中等部進学に向けて必要な情報を得ることができたと思われますか。」については、否定的評価が42％と増加している。「中高等部の教育内容について情報提供する会（お話し会)」が開催できていないことが一因であると分析されているが、保護者の満足度向上のため、中等部・高等部についての説明を受ける機会は設けて頂きたい。

・総じて保護者アンケートの満足度は高く、それに対して教員アンケートの方が満足度は低い結果となっているが、この結果は、教員が現状に満足せず、さらなる向上意識を持って取り組もうとしていることの表れと考える。

・児童アンケートについて、問10の「いじめやなかまはずれなどをしていませんか。」としている側の確認を行う質問だけでなく、「いじめや仲間外れをされていないか」を問う、されている側の質問も必要と考える。する側とされる側の双方の実態を把握し、その結果にズレがあった場合には、教員側の対応はもちろんであるが、子どもたちにも理解のズレがある状況を認識してもらうことも大切ではなかろうか。

・児童アンケートの問５「先生方は工夫した授業をしていると思いますか。」に対し、11％が否定的な回答をしており、児童はとても厳しい目で教員を見ていると感じた。アンケート結果の分析に記載のとおり、改善に向けた取組が望まれる。

［学校関係者評価委員会委員名簿］

氏　　名	所属及び役職
土　井　六　三	高槻市磐手地区コミュニティ協議会　会長 高槻市古曽部町自治会　会長
永　易　秀　登	関西大学初等部教育後援会　会長
城　下　英　行	関西大学社会安全学部　准教授　※評価結果とりまとめ執筆者
長　戸　　基	関西大学初等部　校長

6　校長の意見書

関西大学　初等部
校長　長戸　　基

保護者・児童によるアンケート結果、教員による学校・教育活動評価の結果に加え、学校関係者評価委員の皆様からいただくご意見は初等部の学校運営・教育活動の改善に向け貴重なものであると考えている。

重点目標①「本校教育の柱である思考力育成の取り組みのさらなる充実を図るとともに、授業研究に積極的に取り組むこと」について、学校関係者評価委員の皆様から「研究発表会で授業を参観させていただき、先生方の指導・愛情に驚いた」「在校生の保護者を含まずにこれだけの人数が参加するのは驚異的なことではなかろうか。初等部の教育が注目されていることの表れと考える」など、過分なお言葉をいただいたことは学校にとって非常に嬉しい評価である。今後も研鑽を怠ることなく、思考力育成の取組を充実させていきたい。また、全国学力学習状況調査結果については、来年度以降も国立大学附属の平均点との比較により、本校児童の学力推移を測っていきたい。

重点目標②「良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること」についても、学校関係者評価委員会の皆様から「運動会を見学したが、６年生が中心になって司会をし、責任感を持って運営を行っている様子が見て取れた。」「立場が人を作るというが、たてわり活動に力を入れ、子どもたち主体で実施されていたことが、しっかりと成果として出ていたと感じる」など、好意的な評価をいただいた。

今後、増えてくるであろう様々な特性を持った児童に応じた合理的な配慮については、個々の教員が個別に対応するのではなく、学校としてチームで対応するということを大切に進めていきたい。

重点目標③「管理面・指導面について継続的に改善を図るとともに、中高等部・大学及び保護者との連携を意識した学校運営体制を整えること」については、「初等部の全学年の子どもたちと学部のゼミ生が安全に関するワークショップの場を持つことができたのは、とても大きな進展である」とのご意見をいただいている。今後も一つのキャンパス内に初・中・高に加えて大学までがある学校として、連携をさらに深めていきたい。また、入学試験の実施については、「出願状況が大変好調であったこと、体験授業実施の取組や、幼児教室への積極的な広報活動が結果に繋がったことから、十分に「◎」と評価できる」と評価いただいた。さらに「広報活動の展開だけでなく、初等部の教育そのものが評価された結果であろう」との好意的な評価もいただいている。今後も初等部教育のさらなる充実をめざして教育活動に取り組んでいきたい。

アンケート結果に関して、「保護者の満足度向上のため、中等部・高等部についての説明を受ける機会は設けて頂きたい」との率直なご意見をいただいた。来年度以降、中等部と連携を取り、早い段階で保護者の皆様に適切な情報提供を実施することをお約束した。

児童アンケートについては、「いじめやなかまはずれなどをしていませんか」という質問だけでなく、「いじめやなかまはずれをされていないか」という「された側」に対する質問が必要とのご指摘をいただいた。非常に大切な視点でのご意見と受け止めている。来年度以降のアンケート項

目には「された側」に対する質問項目を入れ、実態を把握していきたい。

児童アンケートの「先生方は工夫した授業をしていると思いますか」に対する回答について、「先生方のあの授業で『先生、もっと頑張って』って言う子が 10%以上もいるなんて、子供たちはとっても厳しい目で先生を見ているんですね」との感想をいただいたが、我々教員は「授業で勝負する」のが本分である。高い授業料を徴収している学校として、授業に対する肯定的評価 100%を目指すのは当然である。今回の結果を重く受け止め、授業改善に取り組んでいく必要がある。

以　上

7　アンケート結果

2023 年度 学校評価アンケート質問項目（教員用／保護者用）

2023 年度 学校評価アンケート集計（教員／保護者）

2023 年度 学校評価アンケート質問項目（児童用）

2023 年度 児童アンケート集計

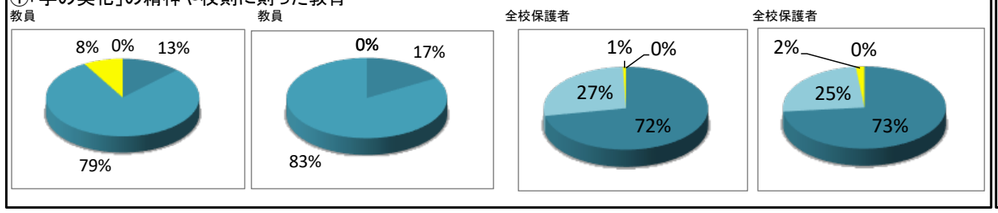
2023年度　学校評価アンケート（質問項目）

教員用		保護者用
◎私学の独自性	①「学の実化」の精神や校訓に則った教育が行われている。	①関西大学の「学の実化」の精神や初等部の教育方針・校訓についてご存知ですか。
（教育方針）	②関西大学初等部では公立や他私学に負けない教育が行われている。	②保護者としてお子さんを関西大学初等部に入学させて良かったと思われますか。
（１）学級経営	③一人ひとりが大事にされる学級作りが行われている。	③お子さんは学校が楽しいと言っていますか。
（２）学力向上	④基本的な学習ルールが学年に応じて身につけられている。	④お子さんの授業中の学習態度はきちんと身に付いていると思われますか。
	⑤確かな学力をつけるための工夫された授業が行われている。	⑤学力をつけるために工夫された授業が行われていると思われますか。
	⑥思考力重視の指導が積極的に行われている。	⑥思考力の育成を重視した授業が積極的に取り入れられていると思われますか。
	⑦シラバスに則った授業や新教育課程への対応がなされている。	⑦シラバスや週案に対応した学習が適切に進められていると思われますか。
	⑧各学年に応じた家庭学習が推進されている。（家庭への啓発、指導等）	⑧学年に応じ宿題や自主学習等の家庭学習を進める指導を行っていると思われますか。
	⑨中等部接続に向けてのカリキュラム連携に取り組んでいる。	
（３）英語教育	⑩初等部一貫のカリキュラム作成に取り組んでいる。	
	⑪コミュニケーション技能の重視など、工夫した英語の授業がなされている。	⑨英語教育では、コミュニケーション技能をはじめ、「話す」「聞く」「読む」「書く」の四技能をバランス良く指導していると思われますか。
（４）国際理解	⑫英語の授業や総合的な学習の時間を使った国際理解教育が推進されている。	⑩外国の方との交流など、学年（発達段階）に応じて国際理解学習を進めていると思われますか。
（５）図書館	⑬学校図書館を使って教科学習を含む多様な学習が行われている。	⑪図書館では読書だけでなく、ミューズ学習等、多様な教育が行われていることをご存知ですか。
	⑭人間性の育成や思考力育成の礎として積極的な読書指導が行われている。	⑫読書の時間の設定や電子図書の利用など、学年に応じた読書指導が行われていると思われますか。
（６）ＩＣＴ	⑮学年に応じて多くの教科等で計画的な利用がなされている。	⑬授業等でiPad等の情報機器が効果的に活用されていると思われますか。
	⑯学校の情報がＨＰや学年・学級通信・ブログ等によって積極的に発信されている。	⑭HPや学年通信・学年ブログ等から初等部の情報を得ることができていると思われますか。
（７）生徒指導	⑰基本的な生活習慣などの指導が積極的になされている。	⑮挨拶や返事等の基本的な生活習慣の指導が適切になされていると思われますか。
	⑱いじめや不登校などの未然防止に取り組んでいる。	⑯いじめや不登校が起こらないように未然防止・早期対応等に学校全体で取り組んでいると思われますか。
	⑲登下校のルールなどについて積極的な指導を行っている。	⑰交通ルールやマナーの指導等、適切な登下校指導が行われていると思われますか。
（８）特別活動	⑳学年・学級行事や運動会・文化祭などの行事に積極的に取り組んでいる。	⑱学年・学級行事や運動会・文化祭などの学校行事が学年（発達段階）に応じて行われていると思われますか。
	㉑クラブや委員会活動において自治意識や友だち作りを図っている。	
（９）道徳教育	㉒基本的な道徳的価値や実践力等の育成を積極的に図っている。	⑲授業や多くの機会を通じて道徳心の育成を学年（発達段階）に応じて行っていると思われますか。
（１０）人権教育	㉓「いのち」をテーマにした授業に積極的に取り組んでいる。（健康教育とリンク）	⑳学年に応じて「いのちや成長に関する授業」に学年（発達段階）に応じて取り組んでいると思われますか。
	㉔国際交流等を通じ国籍などの違いを認め合う教育を積極的に進めている。	㉑国際交流等を通じて、国籍・人種などの違いを認め合う教育を学年（発達段階）に応じて行われていると思われますか。
	㉕学年に応じて、社会における人権問題に関する教育を進めている。	㉒学年（発達段階）に応じて、社会における人権問題に関する教育を行っていると思われますか。
（１１）健康教育	㉖運動に対する意欲・関心を高め、積極的な体力作りを行っている。	㉓体育の授業や体育的行事を通して、学年（発達段階）に応じて体力作りを行っていると思われますか。
	㉗「健康」「食」「いのち」に対する意欲・関心を高める取組を積極的に行っている。	㉔給食指導など、発達段階に応じた食育に取り組んでいると思われますか。
（１２）安全管理	㉘登下校の安全管理のため、各児童の登下校路等の集約ができている。	
	㉙各児童の登下校状況が確実にチェックされ、円滑に家庭連絡されている。	㉕ICタグによるチェック等、登下校の状況把握が確実に行われていると思われますか。
	㉚児童自らの危機回避能力の向上に努めている。	
	㉛警報発令時等の登下校指示が明確に家庭に伝わっている。	㉖「警報発令時等の登下校について」の内容についてご存知ですか。
	㉜各種避難訓練を教育課程に位置づけ、計画的に実施している。	㉗初等部では地震や火災などの避難訓練を適切に実施していると思われますか。
（１３）研修	㉝思考力育成や授業全般の指導力向上の研修を積極的に実施している。	㉘教員は授業研究などを通して授業力の向上に努めていると思われますか。
	㉞思考スキルを取り入れた教科指導を積極的に試みている。	
	㉟研究発表大会の成功に向けて全体で積極的に取り組んでいる。	㉙研究発表会は初等部の教育の推進に役立っていると思われますか。
（１４）進路指導	㊱中等部進学に向けて高学年の児童や保護者に対し適切な情報を提供している。	㉚（※5，6年生保護者のみ）中等部進学に向けて必要な情報を得ることができたと思われますか。
（１５）入試広報	㊲計画的な入試・広報活動が行われている。	
・連携	㊳研修等を中心に関西大学との連携が積極的に行われている。	
	㊴教育後援会と適切な連携が行われている。	㉛教育後援会は、教職員と望ましい連携がとれていると思われますか。
	㊵学校と家庭との連絡や相談が必要に応じて適切に行われている。	㉜学校・学級からの連絡が必要に応じて適切に行われていると思われますか。

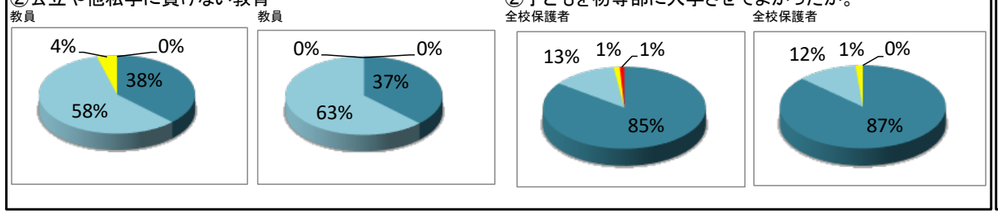
2023年度　学校評価アンケート　集計

■よくあてはまる　■ややあてはまる　□あまりあてはまらない　■まったくあてはまらない

①「学の実化」の精神や校則に則った教育

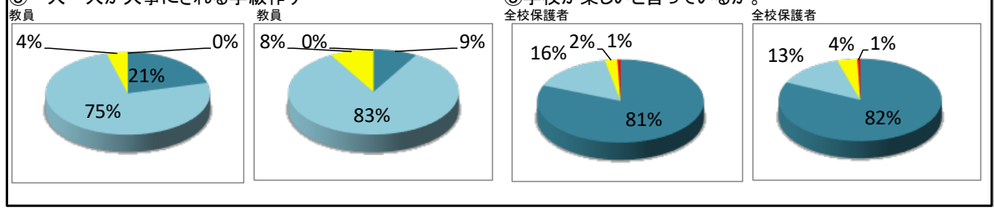


②公立や他私学に負けない教育



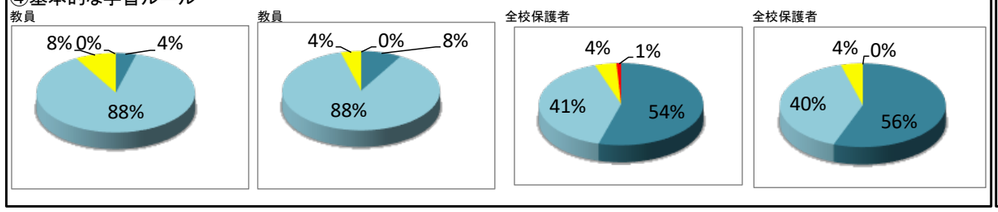
②子どもを初等部に入学させてよかったか。

③一人一人が大事にされる学級作り

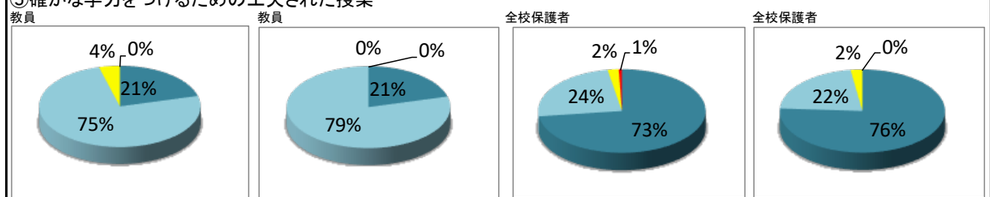


③学校が楽しいと言っているか。

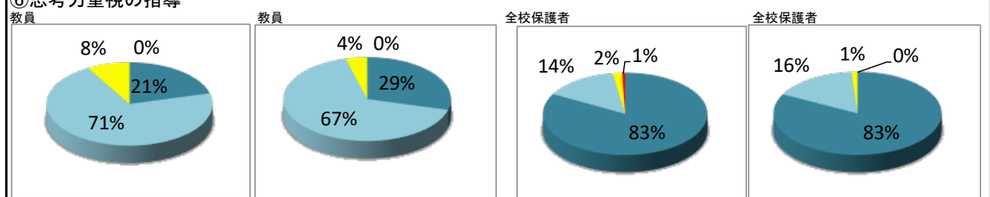
④基本的な学習ルール



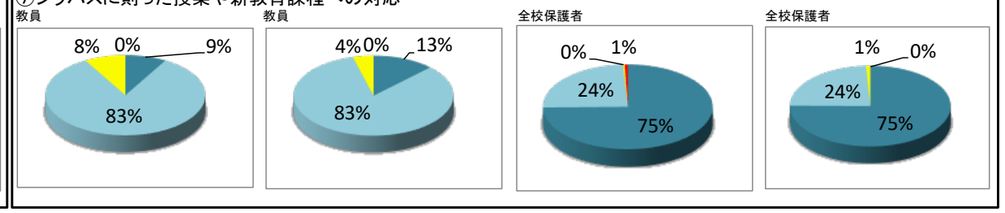
⑤確かな学力をつけるための工夫された授業



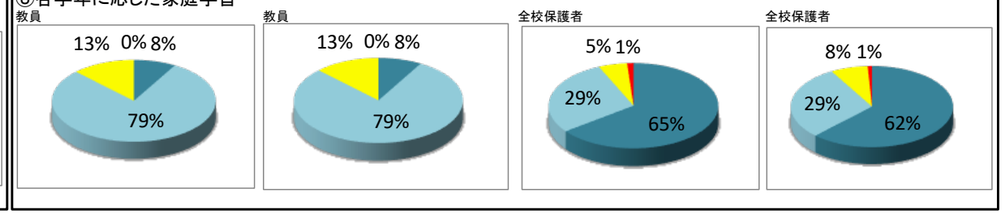
⑥思考力重視の指導



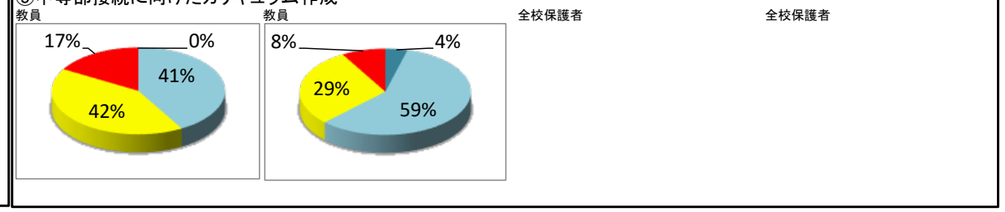
⑦シラバスに則った授業や新教育課程への対応



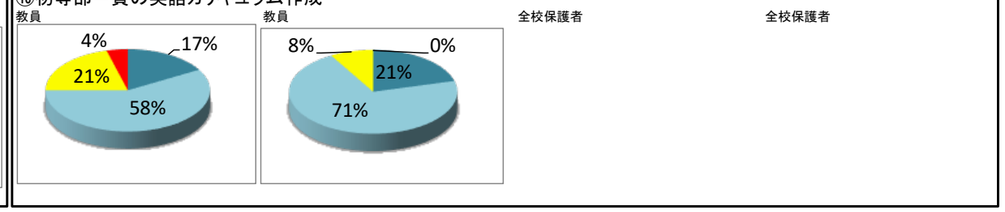
⑧各学年に応じた家庭学習



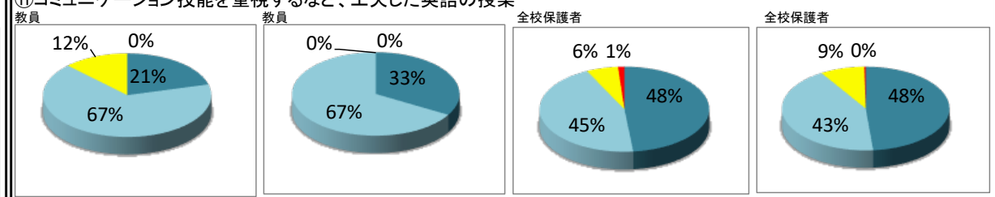
⑨中等部接続に向けたカリキュラム作成



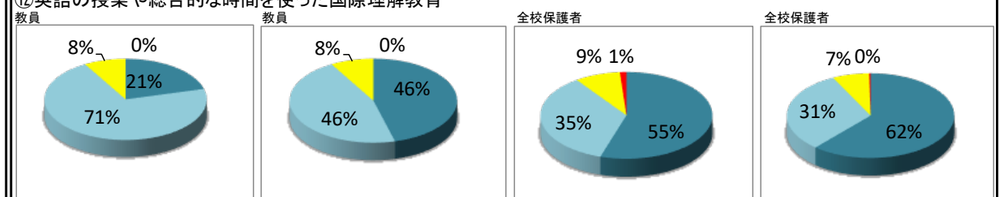
⑩初等部一貫の英語カリキュラム作成



⑪コミュニケーション技能を重視するなど、工夫した英語の授業

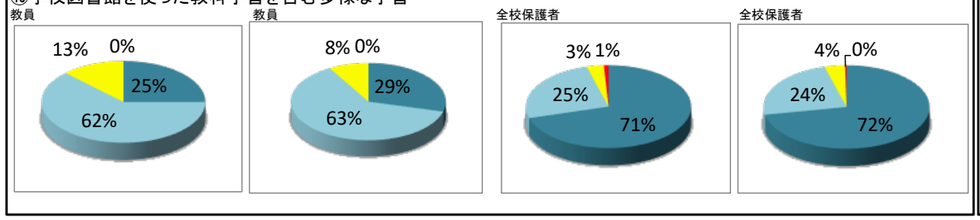


⑫英語の授業や総合的な時間を使った国際理解教育

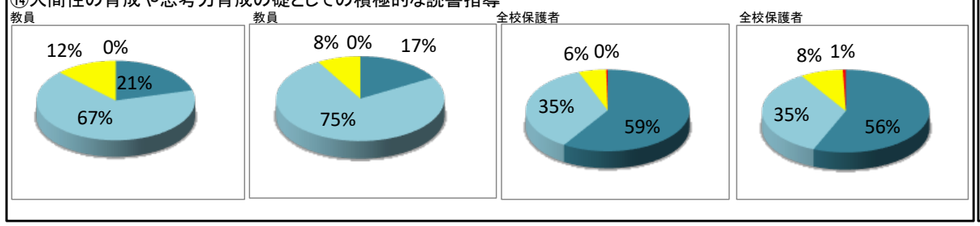


2022 2023 2022 2023

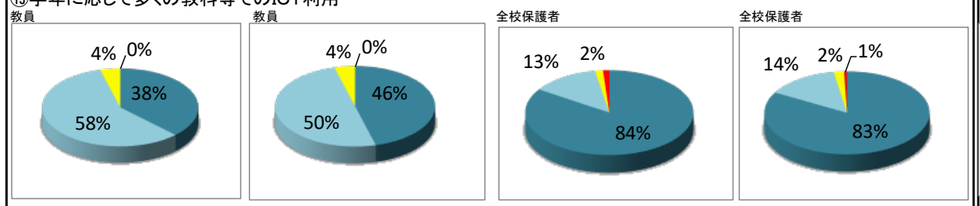
⑬学校図書館を使った教科学習を含む多様な学習



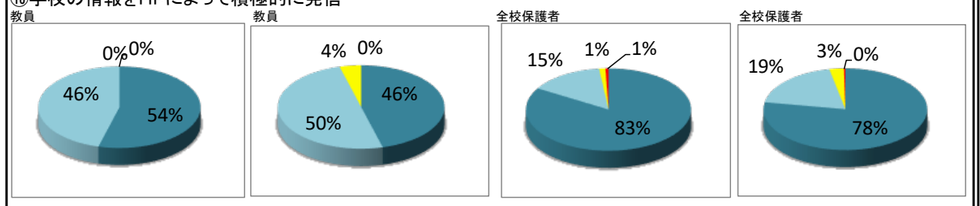
⑭人間性の育成や思考力育成の礎としての積極的な読書指導



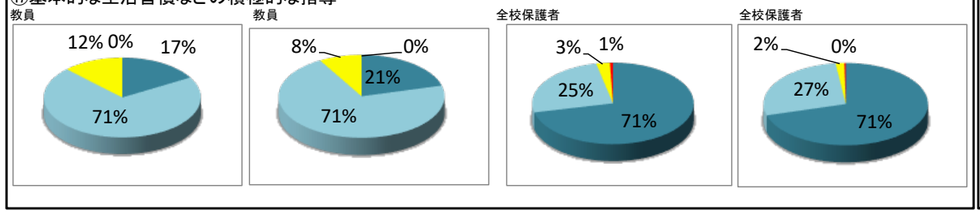
⑮学年に応じて多くの教科等でのICT利用



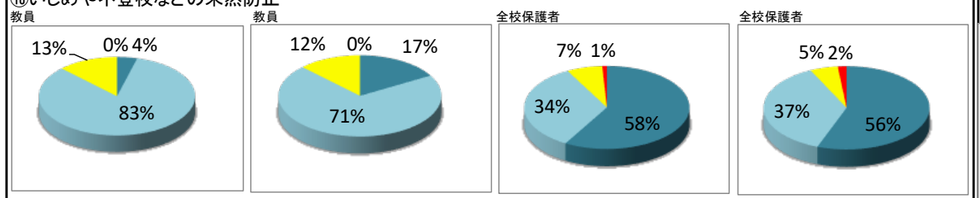
⑯学校の情報をHPによって積極的に発信



⑰基本的な生活習慣などの積極的な指導

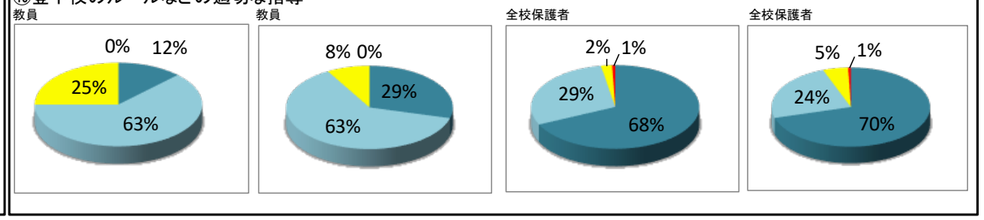


⑱いじめや不登校などの未然防止

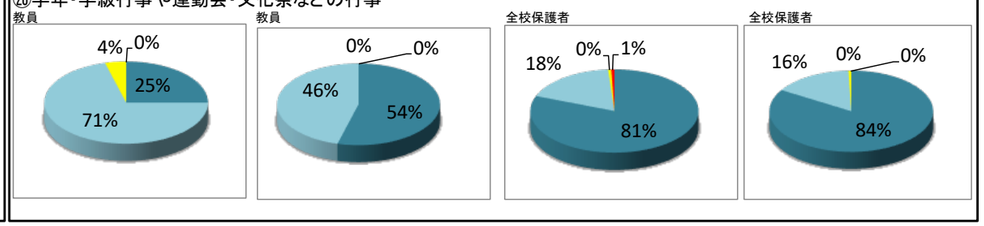


2022 2023 2022 2023

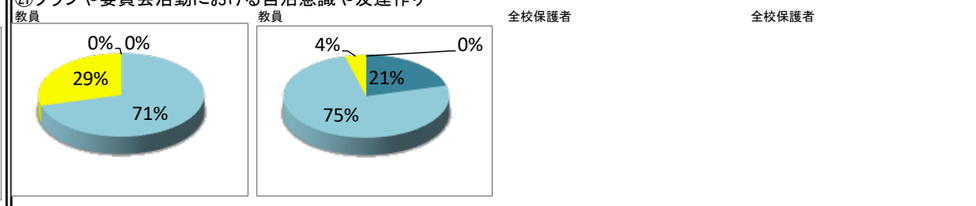
⑲登下校のルールなどの適切な指導



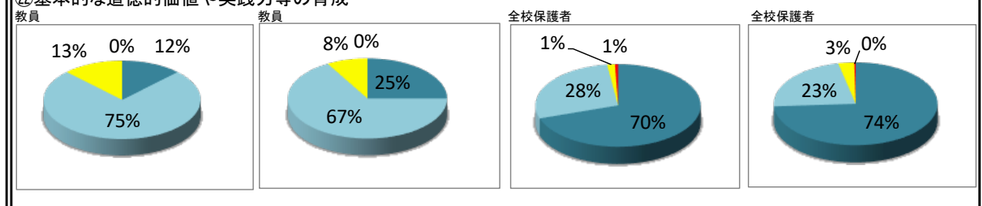
⑳学年・学級行事や運動会・文化祭などの行事



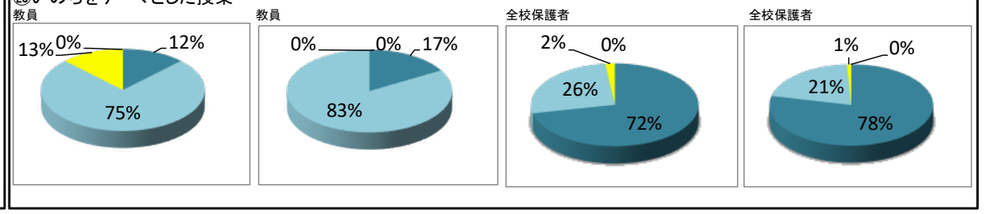
㉑クラブや委員会活動における自治意識や友達作り



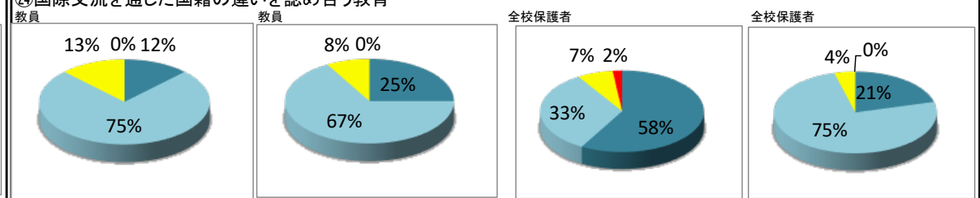
㉒基本的な道徳的価値や実践力等の育成



㉓いのちをテーマとした授業

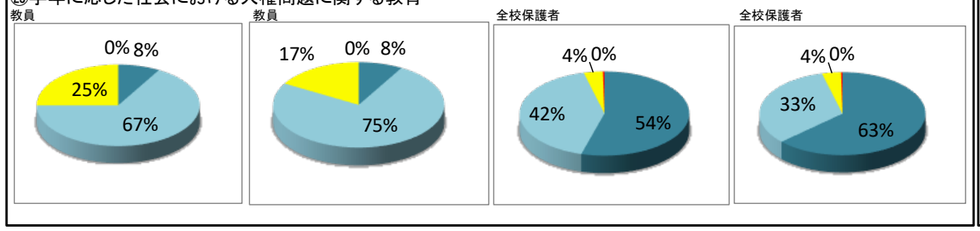


㉔国際交流を通した国籍の違いを認め合う教育

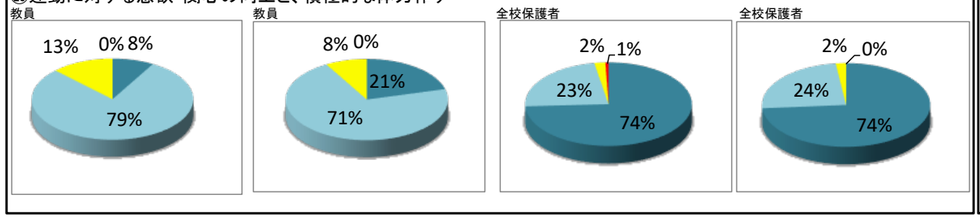


2022 2023 2022 2023

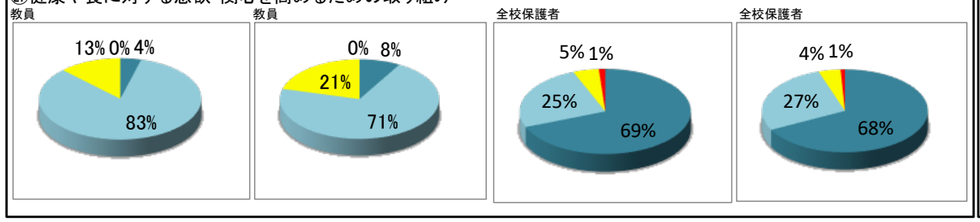
㉕学年に応じた社会における人権問題に関する教育



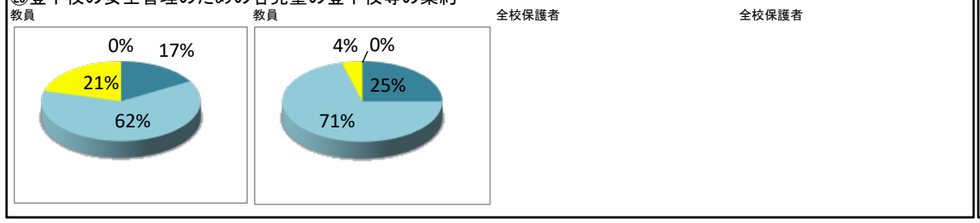
㉖運動に対する意欲・関心の向上と、積極的な体力作り



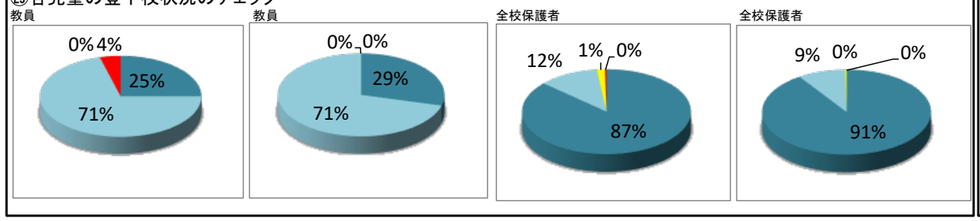
㉗健康や食に対する意欲・関心を高めるための取り組み



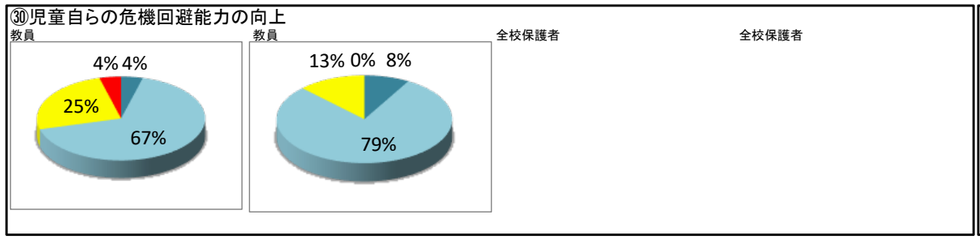
㉘登下校の安全管理のための各児童の登下校等の集約



㉙各児童の登下校状況のチェック

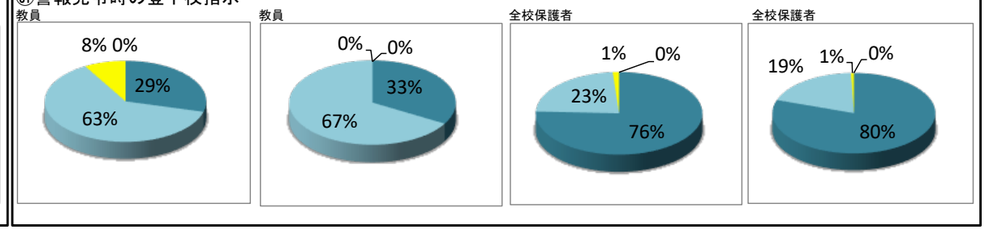


㉚児童自らの危機回避能力の向上

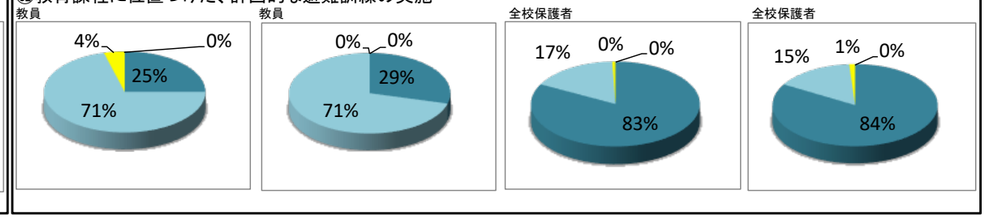


2022 2023 2022 2023

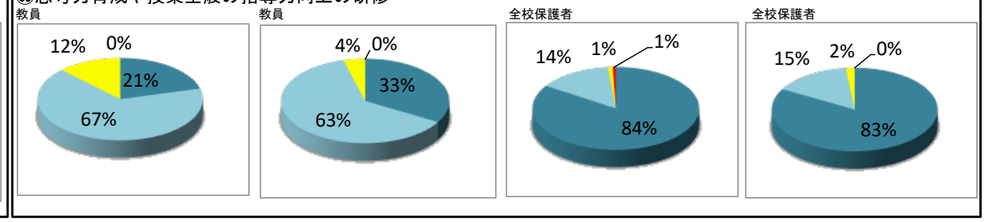
㉛警報発令時の登下校指示



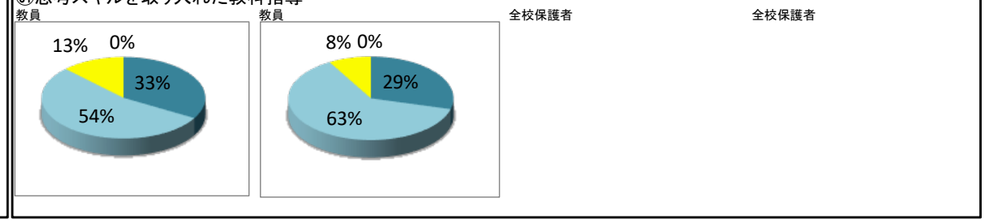
㉜教育課程に位置づけた、計画的な避難訓練の実施



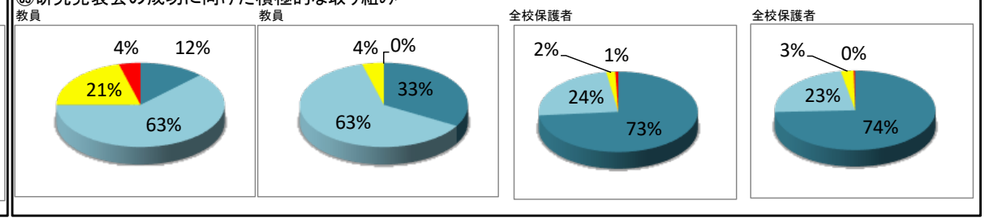
㉝思考力育成や授業全般の指導力向上の研修



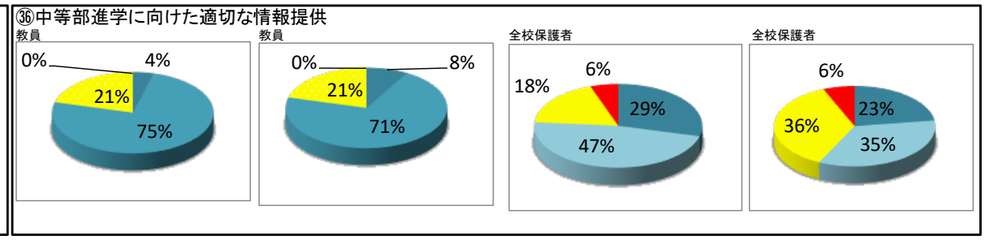
㉞思考スキルを取り入れた教科指導



㉟研究発表会の成功に向けた積極的な取り組み



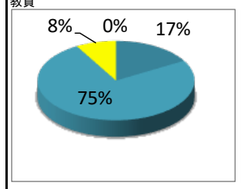
㊱中等部進学に向けた適切な情報提供



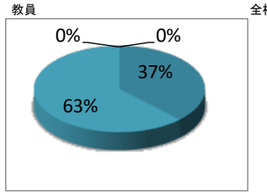
2022 2023 2022 2023

㊲計画的な入試・広報活動

教員



教員

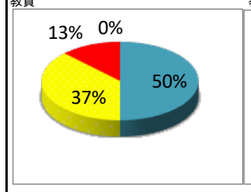


全校保護者

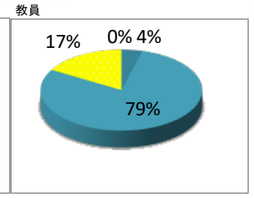
全校保護者

㊳研修を中心とした関西大学との連携

教員



教員

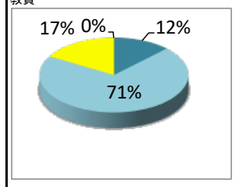


全校保護者

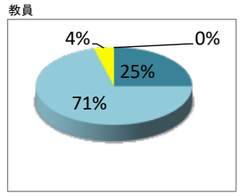
全校保護者

㊴教育後援会との緊密な連携

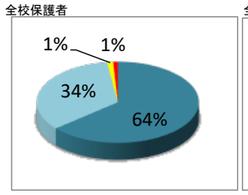
教員



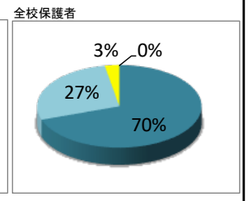
教員



全校保護者

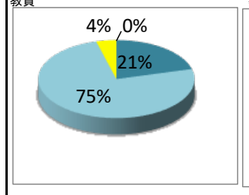


全校保護者

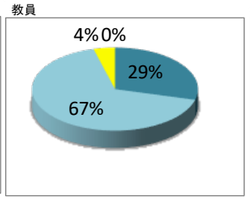


㊵学校や家庭との連絡や懇談

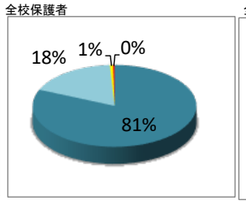
教員



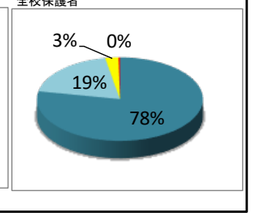
教員



全校保護者



全校保護者



学校生活をふりかえって（4，5，6年生用）

入学からこれまでの学校生活をふりかえって、下の質問にこたえてください。

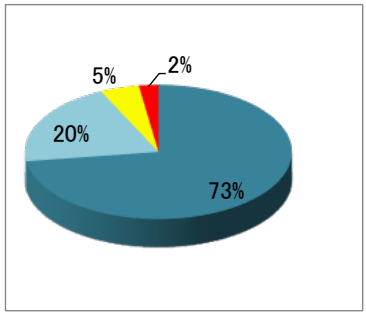
1＝よくあてはまる　2＝ややあてはまる　3＝ややあてはまらない　4＝まったくあてはまらない

問い	
1	関西大学初等部に入学してよかったと思いますか。
2	学校は楽しいですか。
3	勉強をがんばっていますか。
4	思考力がついたと思いますか。
5	先生方は工夫した授業をしていると思いますか。
6	いろいろな本を読んだり、学習に本や資料を活用したりできましたか。
7	iPadやパソコンなどを必要に応じて活用することができましたか。
8	運動会や文化祭など、さまざまな行事に積極的に取り組みましたか。
9	ルールやマナーを守って学校生活をおくることができましたか。
10	いじめやなかまはずれなどをせず、仲よく生活できていますか。

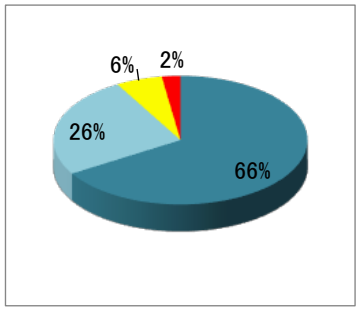
2023年度（児童アンケート）

よくあてはまる　ややあてはまる　あまりあてはまらない　まったくあてはまらない

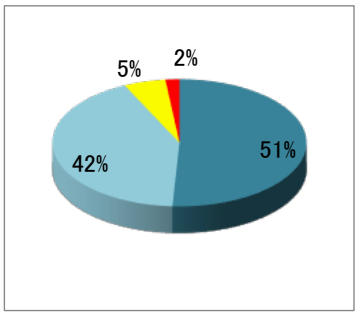
①関西大学初等部に入学してよかったと思いますか。



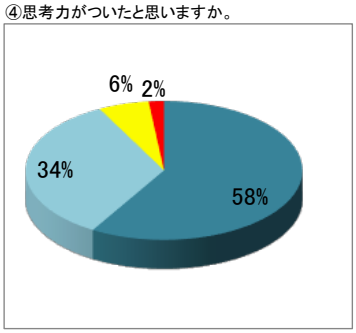
②学校は楽しいですか。



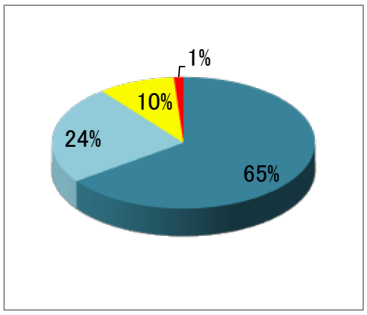
③勉強をがんばっていますか。



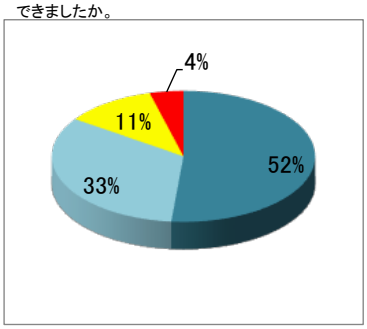
④思考力がついたと思いますか。



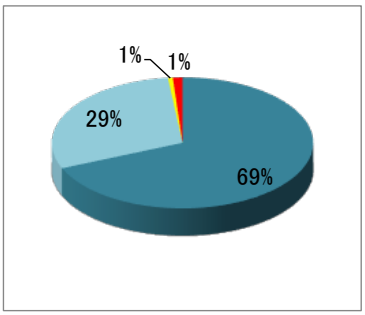
⑤先生方は工夫した授業をしていると思いますか。



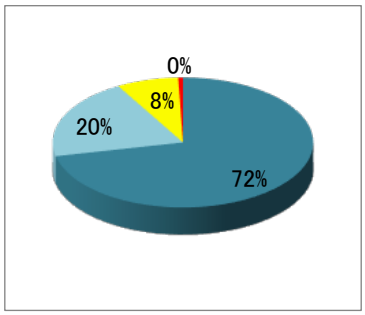
⑥いろいろな本を読んだり、学習に本や資料を活用したりできましたか。



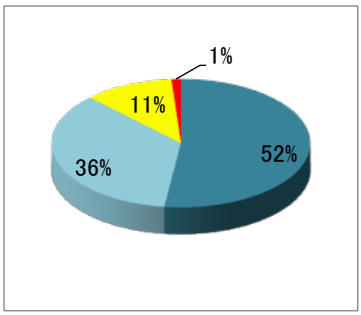
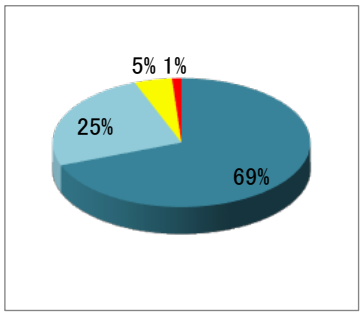
⑦iPadやパソコンなどを、必要に応じて活用することができましたか。



⑧運動会や文化祭などに積極的に取り組みましたか。



⑨ルールを守って学校生活を送ることができましたか。



⑩いじめやなかまはずれなどをしていませんか。